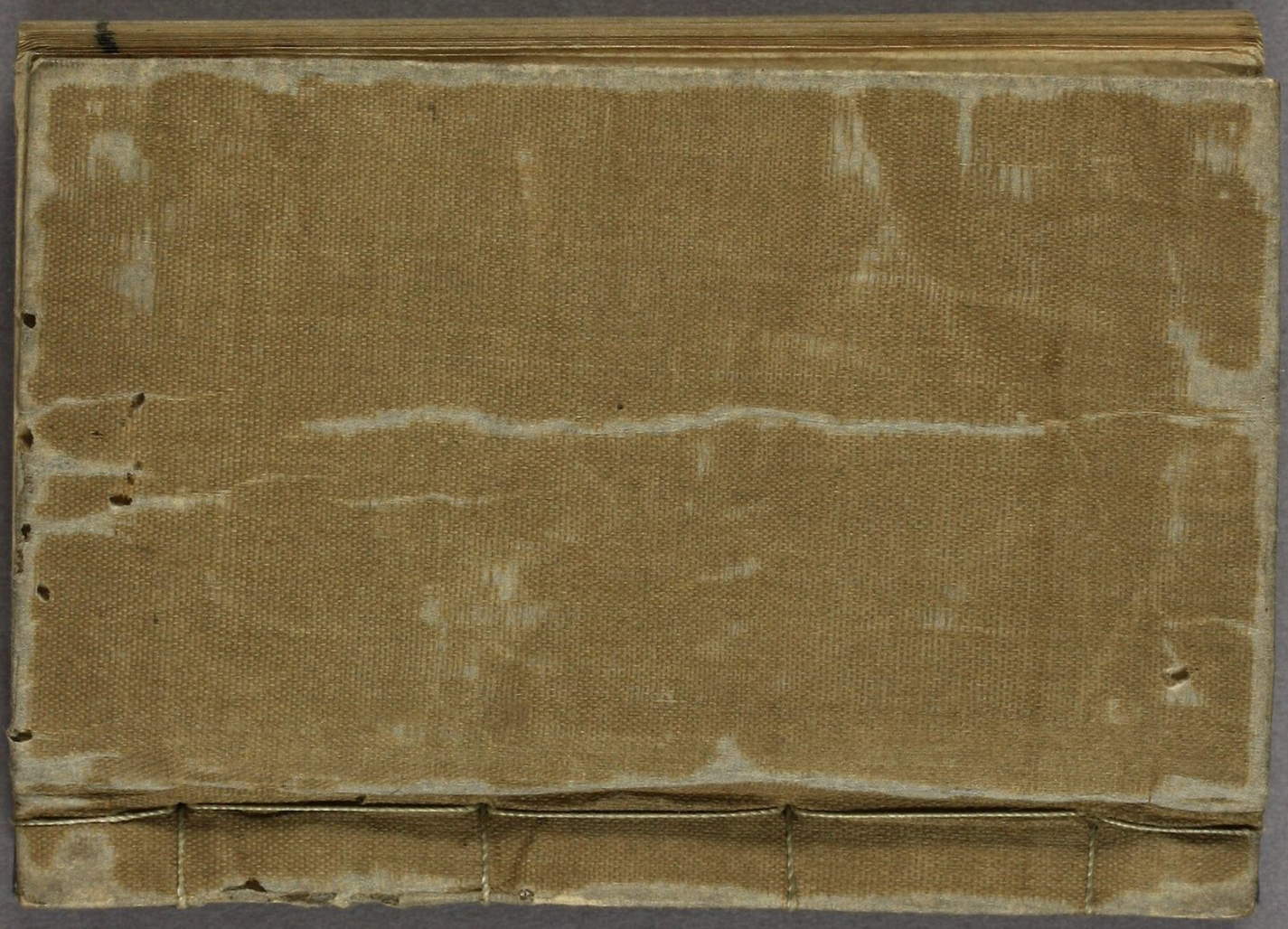


草菴和訓集類題目録一

春部

立春　早春　海辺子春
子春霞　早春氷　初春曙
初春鶯　霞　曙霞
夕霞　山霞　遠山霞
孤舟霞　海霞　海辺霞
浦霞　湖霞　何辺霞
鶯　雲中雲　暁霞
曙鶯　朝鶯　夕霞
谷鶯　鶯出谷　放て鶯
弥鶯　雲乃友　春日祝

九曜文庫

晨煮　高中晨葉　郵若葉
澤晨堂　春雪　殘雪
心殘雪　郵殘　殘雪
二月餘寒　拗　餘寒
拗蕙風　拗蕙　拗風
拗蕙池　吉中拗　拗蕙池
夜拗　月拗　沙拗
星拗　夜拗　雨拗
古宅拗　御　雨拗
雨中柳　柳落　柳風
春曉月　春夕月　春月
山春月　河上春月　春月幽
水鄉春月

故鄉春月　春雨　春夕雨
夕春雨　夜春雨　河春雨
故鄉春雨　旅春雨　歸雁
嘉中歸雁　曉歸雁　夕沙厂
夜歸雁　深秋歸雁　海邊歸雁
湖歸雁　水鄉歸雁　三月三日
由水禽　雁　雲萊
原雲萊　鸞　雲萊花
花　待花　沙山花
雨中待花　雨居待花　初花
尋花　遠尋花　說花
花未遍　花盛　山花盛

見花　見花日暮　花下送日
花及窓　花茶碗　花挿頭
折花　蜆花　胡花
夕花　夜花　夜思花
月迫花　月前花　雨中花
雨後花　窓中花　旅宿花
羈中花　山花　山路花
苦山花　山家花　雨后花
茶花　古陵花　杜花
開花　里花　京花
沈丑花　河丑花　持丑花
姻丑花　海丑花　浦花

陵花　禁中花　故郷花
古寺花　名所花　庭前花
松蒲花　花交松　花の雪
花高老　寿花　寿花庵回
花友　花述懐　寿花下陰
花間鶯　花徒風　前花
花殺風景　花に風　情花
水郷花　河花　花花
開花　折花　花花
情花　陵花　夕花
山郷躑　郷躑　河欽冬
藤　欽冬　沈藤
水丑藤

松之藤　春藤
春天裏　春晩
芳春　春地紙　芳春欲芳
芳春雨　芳春雨　芳春寫
三月尽　山家芳春　浦芳春

夏部

文衣　羽文衣　都鄙文衣
餘花　尋路花　殘花
山殘花　庭新撰　卯花
夜卯花　杜卯花　里卯花
葵　牡丹　郭公
待郭公　人傳郭公　郭公未遍

初郭公　遠郭公　曉郭公
夕郭公　夜郭公　深夜郭公
山家郭公　杜郭公　湖上郭公
池郭公　郭公遍　早苗
採早苗　山田早苗　菅蒲
軒菖蒲　小田菖蒲　夜蟲
夏木　五月雨　五月雨　晩又月雨
五月雨久　五月雨晴　松又月雨
河五月雨　池五月雨　浦又月雨
淺五月雨　五月雨　野又月雨
蛍　夕蛍　水上蛍
河上蛍　篠上蛍　江蛍

聲雲　鄙雲　叫雨雲
蔡瑞雲　晚夏雲　寒雨雲
夏月　山夏月　浦夏月
雨後夏月　夏雨　夏胡
夏州　野夏州　凡蘭夏州
庭夏州　霍夏　籬霍夏
熱門　照射　曉更照射
水鶴　蓬　白雨
夕立風　夕虫　山蟬
秋蟬　夕蟬　納涼
夕納涼　火丑納涼　泉
泉避暑　志賀幸湾夏　拙所夏

河夏扇　六月扇

秋部

早秋　早秋風　初秋　初秋風　初秋朝雲　初秋雲　初秋夕雲　七夕　七夕雲　七夕橋　七夕河　七夕後朝　国月七夕　七夕鳥　夜萩　庭萩　萩露　萩風　野外萩　月前萩　萩叢　萩屏　芒

竹花　胡竹花　竹花鹿
鹿竹花　閑居竹花　竹花雁
霧中竹花　月出竹花　月出竹花
獲　小鷹狩　蘆
曉鹿　野鹿　野鹿
野外鹿　野外秋鹿　野秋風
秋風　秋鹿　秋夕鹿
田家秋風　秋雨　秋夜雨
秋雨雁　秋天象　秋動地
秋雁　秋田　秋
鹿　月下閑鹿
霧中鹿　胡鹿　夕鹿

夜鹿　遠鹿　山鹿
芋山鹿　野鹿　田家鹿
田家夕鹿　閑居鹿　鹿寺何方
鹿與竹花　鹿　胡初雁
山家初雁　月前初雁　月前聞雁
夕雁　田上雁　出
曉出　夕出　獲出
月前出　蘆夕出　閑庭出
槍鉸図出　出寺迎　霧
胡霧　芋山霧　何霧
河上霧　湖上秋霧　浦霧
後霧　田上霧　弱迎

月

九月十三夜

雲間月　月前夢　月妙　曉天月　夕月　芋山月　谷月　野分月　閑月　江月

八月十五夜　十六夜月

海山見月　山家見月　夢間月　月前時雨　月妙境　月歌雲　海上曉月　月出山　海山月　岩月　野径月　拂下月　江清月　辺人　河月

海月　湖月　海上月　湖辺月　海辺月　浦月　海月　放鄙月　放鄙月　山家月　田家月　山辺月　古寺月　山家月　戸間月　竹間月　月前鶏　月前鶏　月前猪　月前蕎　月前秋　月前雁　月前思　月前万　月妙　月秋久　伯母捨山　秋　捨山　文城野　月前搗衣　夕搗衣　搗衣　月前搗衣　海辺搗衣　遠村搗衣

山家清夜　賀　清夜　清夜逸
蜀　蜀　蜀雞　蜀雞
蜀雞　月前菊　月雞　野雞
月前紅葉　紅葉　夕紅葉
紅葉遍　月前拙　山紅葉
晴秋月　石所紅葉　晴秋
九月尽　晴秋月　九月尽
冬部
初冬　初冬時雨　時雨
風前時雨　曉猿時雨　時雨
夕時雨　夜猿時雨　屋上時雨

海辺時雨　為紫　為紫雨
為紫　為紫　為紫雨
河為紫　杜為紫　為紫
湖紫　庭為紫　殘菊
胡紫　檜紫　宅竹
夕宅竹　杜宅竹　跡宅竹
即位宅竹　閑庭宅竹　宅産
氷　江氷　潮氷　池氷
江氷　湖氷　河氷
湖氷　河冬月　保山冬月
河冬月　河上冬天　冬月
宅秋月　雅紫　冬月
秋山冬　海辺冬月　冬月
浦冬月

[illegible]
曉[illegible]
[illegible]
一[illegible]遠[illegible]水
夜[illegible]代
[illegible]殿
雪
[illegible]初[illegible]
[illegible]宮
夕[illegible]
[illegible]山[illegible]
山[illegible]宮
[illegible]月[illegible]宮

[illegible]夜[illegible]
夜[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]殿
竹殿
初[illegible]
[illegible]
[illegible]宮
山[illegible]
山[illegible]宮
[illegible]雪

水[illegible]
雪中[illegible]
[illegible]
[illegible]代
古[illegible]殿
殿[illegible]
山初[illegible]
[illegible]雪
朝[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]宮
[illegible]

[illegible]外[illegible]
開[illegible]宮
[illegible]
[illegible]宮
湖[illegible]宮
[illegible]宮
夕[illegible]
炉火
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
行[illegible]宮
[illegible]宮
[illegible]宮
[illegible]宮
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
湖[illegible]
[illegible]宮
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

草菴和歌集類題目録三

恋部

初恋
恋久
恋待
恋寄
忍恋
初恋
恋久
期待
期後恋
別
不遇

思不言
恋絶
恋不逢
恋絶
見
初久
期待
期後
絶
来不逢

恋
未逢
恋不遇
寄
絶
初恋
期久
三度不見者
不逢
待

夕待、　每夕待、　朝待、
待夜、　夜待、　曉待、
初逢、　初逢、　初逢、
相逢、　相逢、　終日逢、
別、　別、　別後、
別後、　別後、　別後會難期、
別後、　別後、　別後不逢、
不逢、　不會、　夜夜、
歎、　歎、　絶歎、
終日、　歌、　被歌、
時、　夜、　約逢、
莫逢、　後宿逢、　別、
凡夢、　彼夜久、　恨、

久、　向、　遠、
遥、　隔、　隔遠路、
遥、　隔、　隔遠路、
思、　思、　故思、
恨、　恐恨、　互恨、
恨、　恨、　恨久、
恨、　恨、　月前、
終久、　終初、　月前、
月前待、　月前後、　月前前、
春、　夏、　秋夕待、
春中、　冬、　曉、
夜、　不通夜、　限一夜、
石間、　水遠里、　老、
到永、　寄月、　月初、

月色、月別、月潭、
春恨、雲、風、
烟、霧、雨、
柳、雪、山、
花、彩、泉、
窗、流、瀑、
紙、河、海、
湖、
草、蓮、恩草、
蓮、蓮、
恩草、
木、花、恩、
鳥、水鳥、獸、

硯、
筆、
紙、
衣、
弓、
銃、

恩天象、恩雜物、

雜部

天象　天色晴れて
曉　曉霞　曉雲
山　山霧　雲
名所　名所
旅　山旅
夕旅　夕旅
海旅　海辺旅
夏旅　夏旅
冬旅　雪中旅
朝旅　朝旅
月前旅宿　月前旅
旅宿夢　旅宿
羈旅　流水浪雲根
海之曉雲
瀧水
名所
風流旅
湖辺旅
月前旅
落月
旅宿
羈旅

羇中嵐
旅泊
夜秋
海雲日暮
山家夕嵐
山家秋
山家歌
山家路
閑居
田家烟
竹色不改
秋
霞杉

羇中夜
旅泊
自行
山家
山家秋
山家歌
山家水
山家送年
作候之間
田家
竹
杉風
杉年久

羇中見月
旅泊愛
海浪
山家嵐
山家秋者
山家水
作候之間
田家
蒼苔
海山經
窓竹
為茶杉風
傳杉

度杉
杉色春久
鴻鵠
曉鶯
郭鳥
雨後眺望
山家眺望
寄雲
山家

杉
雜植物
庭上鶴
爾鶴
鶴
海上眺望
海上夕望
羇中眺望
述懷
寄月
寄木
依人
老後
寄鄰
寄孫
寄世

杉知春
鶴
鶴年遲年
羇中鶏
夕鐘
海上眺望
海上夕望
寄月
寄木
老後
寄鄰
寄孫
寄世

羇中｜　寄神｜　旅行｜

懐旧　夏懐旧　獨懐旧

寄家懐旧　哀傷　無常

夏　神祇　寄花｜

寄縁｜　秋｜　社頭

祝　寄道祝　寄酒祝

寄私祝　寄花祝　寄縁祝

寄神祝　寄竹祇祝　釈教

釈教水　寄花釈教　大日

釈迦　菩薩　人界

聲聞　縁覚

色不異空空不異色　心経　不増不減

真實不虚　羅睺羅王子因縁　安元之説

諸法ノ相及寶羅網出微妙音譬如百千

種樂同時俱作　阿弥陀経　善親　多淨

無三悪趣　法華弥陀経　此意経

従於不蔵為於法炊　観安楽

示不親近　弥陀経　無量寿

寶樹多花菓衆生所遊楽　寿量品

植衆徳本　無量寿　一切衆生悉有佛性　涅槃

非実接故如虚花等　花厳

惟音寫ノ云一門可為入路　安永集

綫勝神通観雑成就　往生記質

門ミ見得後光得云

乘相狩逸東
又吟境界楽
辰市　鳴海浮　富士山
涵寳浦　雷峰為怨　比良淩
雞鳴芦
雜歌
短奇　和歌
捷頑奇　廻文奇　和句
句歌百首　太狩京孤百首　狂謔
蒲相八京

草庵和歌集類題

春部

立春

[illegible]

早春

[illegible]

海辺の春

[illegible]

早春霞

[illegible]

早春氷

[illegible]

初春

[illegible]

初春鶯

[illegible]

霞

[illegible]

晞霞

[illegible]

夕霞

[illegible]

山霞

[illegible]

遠山霞
檜原霞
海霞
沸立霞
浦霞
湖霞
河立霞
榜立霞

雪中鶯
曉鶯
曙鶯
朝鶯
夕鶯
谷鶯
鶯出谷
故郷鶯

野雪

雪為友

子日祝

若菜

澤若菜

雪若菜

野若菜

春雪

殘雪

山殘雪

野殘雪

餘寒

二月餘寒

梅

梅風

梅薫風

梅薫枕

梅薫袖

梅香薫袖

雪中梅

朝梅

夜梅

月前梅

行路梅

里梅

庭梅

閑庭梅

古宅梅

柳

柳風

雨中柳

柳露

春月

春曉月

春夕月

春月幽

山春月
河上春月
水郷春月
故郷春月
春雨
春夕雨
夕春雨
夜春雨
河春雨
故郷春雨
旅春雨
帰鴈

小倉山の山ぶきの花ちるあはれ深き月哉
たゞ独入こゝろ哉
うらゝかの池の波に入る月はまつもとうつの花哉
かすむ山ゆかしかるべき月の哉
深雪消てつもりし雪の花哉
花ざかりの翁の面に春雨ふる
蓮の葉のぬれもとゞかぬ雨哉
春雨の音にのこる夜の月
ぬれてゆく人の袖ふる春雨
しぐるゝ水のうへにふる春雨
うすくこめて春雨に中くいろ旅衣ふる
うらゝかの雲にうかぶ帰鴈

偶のあくがれ出て古の人の跡を尋ぬるのみ
なり上をとゝまりしかも行くゝ月日は疾
くつゝくも去ぬるかなむ初て八重を隔ん春の月全
くれぬの化粧をふかぬ月哉
花ふゝ花ゆゝ春の月全こゝろ哉
色うれてハ人ゝ春の月哉
つれてこし雲井の月ハ一つ哉
白雪ゝ友かそゝる夕べの月哉
立ゆく雲井ゆゝしかりと待えてやむる里に春の月
春立ぬ雲ふゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ
いつゝふるもゝ雲ゝ雲ゝ
頃見ハ霞ゝ霞ゝ霞ゝ霞ゝ

曉帰鴈
夕帰鴈
夜帰鴈
原夜帰鴈
海辺帰鴈
湖帰鴈
水郷帰雁
三月三日

曲水宴
雑
雲雀
原雲雀
鶯
水花
花

匂ひくる風に彼方此方の花やちるらん
嶺高き山さくら遠くとも花の香りにほひやちるらん
はるし花も匂ひも珍しきゆゑ山にさく風も更
に咲けるもさかりは山桜絶えて折りたるにさらさらん
山さくらの色もへつに咲ければ白くはものめづらしく侍り
とくつまやかにも覚えて花の色に移ろふにも
山桜も程過ぎて咲花は古木に移り香りとなる
花の名れ高きを知る人も風に揺るもとゆる山さくらに
春秋の折りやかに山のくれ家の奥つむにめぐり
散りしは花にしもつらぬ高く見えなば我やのさくら人もてまさる
つれなしく思ふ人のとふにはよその帰る花の折かなと
さはやかのふるまひ桜花匂ひさくらは俤なるらん

咲て散花の日数ふるも花にふへきか方に多く見えしに
をのづから人のこの木をまた右の花なとも
咲はれはやがて今ちる山桜につとめ花の盛りてん
後のさく匂ひはなにかゆゑともよそにて春の山風
東京に住せられしこそれのけりかほと左大納
言為おもして侍るさかへ初て木のなてしまうく
けりし詠けるみちもとにつゆ

ほかにもる右の桜乃揺る風よりも先人に又もこはふ覚
ふるし

かくてそのつえくる春の山桜や見え右の花の茂れは
文保二年衛議位の後民部卿内裏に陳く
らりし東山の桜も見にましてしかもあれし次第

九重のにほひの花を引てたかえしと云々 山ざくらは

かへし

吹風に涼しくちる比の花くの名は桜花なりて君を忘れじ

花のころ木暗にへだてゝ行かし後 聖護院え

まり作られ侍りし

我為に君が山里は花もちるまじく人の見にこし

ちりなば花やちるらん都人ゆかむ折は申しつかはりて

う熱し

去年ちりし心をきかせ道にうつる花をのちにも見ん

いかの山路とも行て見ん咲と見ゆらん花の盛に

昔しの山にて衣をちらし花に来てとくたゞよはさん

またしも花をかへつゞかし咲花の日数にあまる年しの興

翌日ちりよはしとてれなん侍りしに

住みなれて我をむかへし君が為め山のかひのほとりにやどり

東山に住侍しころ民家に花の陰に立つゞきし

ましし後やり遣され侍りし

宮この桜はいふかひなん都の花は春風をふく

らなし

山里はちらし庭の桜咲しく花に春風を吹

東山に住侍しころ藤大納言花のほとりに

まかり給ひし時遣はしけり

春日でゝ立出てゝ山さくら花に心はうつりつゝ

かへし

君か為に此花を折かへて心ひかれし日数ありし

花ちりてねらるゝ時ハ此世の花をしのびまちれ山にゆく
人の心もこの散るをもしらぬるひまに雪と嵐の構へん
源意依る所に花を人々よみけるに
君がしも人にもかくるつゝまれ花をもとめなん心のまゝにかゝり
とよみしは同じ心に
木の本にわけしふもとの花ハ都へ人をとふにもやなからん
くれのもとの備前入道蓮阿にとハれて返りけるに
世々の重別し翁の花さかりさくらの花にくもらず老の心に
かへし
古への花をと思ひて見しも木を吹しみどり花盛老の心をと
春の國情國より後に此る山里の花の陰
うつくしく十首ずつ歌をよみしに

待花
かるとハ徐しかのを山桜けしきにも人やおもふらん
春さればよし野の山の桜咲やうてなたへさへかへ風のまに
待山花
山ほとゝかくるゝ月ハいつとなくてはうつくしものをまちさよに
待侘る花の遅さと今幾日つゝらと岩によくある山も
雨中待花
かはるゝしもかゝるみよし雨に桜の咲えぬよ山桜に
閑居待花
山ふかくハことふ人なくも流るゝ花も日数をとへとふに
初花
一木まづ咲初しかたくてよの人のゝおちを知れ
一井にかゝりけるハ桜さきそれかつまる桜雨たゝるさこ
尋花
山深く花きさかりを見むとも尋ぬるかのかけに知りと
山深くやよひ今入ぬるにまよひ行く八重と云や桜さくらん
遠尋花
今さきつるまし山峯のしらひとかりはるまつ木の中なる花の色に
競花
此の峯なさぞ思ふかぞへん花竜しうらしき花を見てもと

花赤遍
花盛
山花盛
見花
見花日書
花下送日
花交宴
花兼他
花排頭

折花
咲花
朝花
夕花

朝花
夜思花
月池花
月前花
雨中花
雨後花
霞中花
旅宿花

いつ又でも桜もてくらべはうちとけて暮る春の山桜
夕暮の月は木の間に出てけ山の人にむら雲くもり
夜は花秋ならぬ花そ見えぬ本来まつ花の余情
桜なる人も見えば咲むれ桜にうつる花は月
白妙の夕かの桜咲に見る春にや月のかけ
いつはりもなきこの世は月の影しも咲を待えて
月夜の花さくらまでよりは花かをるかけやまかさらん
ちる花にかゝる花の下露は雪よりも花るなりける
山端に霞隔つるちる花の色や見るて名は初めん
雲とそ見ゆる花と見て春たつは山にも山風吹
雨しめりにやすらふ花のたもとの様ひかりけん
けふは月に山路の旅ねしてうつろふはてかへるところ

羇中花
山花
山路花
暮山花
山家花

とやかくふりし山里は何は尤山路のむかし荷やうら桜
吹きるは嵐そ向ふ山の高さよくれかやしるやさくらあかん
咲かゝり山の桜にこもり入の人つとの梢見てや花ふ
わかきかる宿はなくよしちるときものり深く桜そ盛り
山桜なれば夜の色は雨さへもにとかれて梢なるゝれ
山さくら夕かゝる中の春風か入口もかわるも桜ふ
ちるらし咲やかゝりてやるも風まてはさえるものう梢
山里にはなとひとりまんとくろうも筧とうろん
山里はいつも人かれかるるはむかやかるむくるらん
花の色つ実は庭はまた花園か入をまさりく山家花と
いつまでも咲けるかもしか
気つゝる花の色もわかさんむ咲る山の陰かほどすみ

又の日めりこそやよ入給ひしに

庭の面にうちしみ侍るそむの宮例様ある侍と訪て

此色しかも大園数樹あるかに入乃てあらば作られし

いよいよ今なる侍しが又まて於色深き花の便雪

色そむ君ならしくの花なす類ひなりし山さくらへ

山作りに猶緑ふかまろむの垣根ほのうけりてんれ

きらしきと試むる君の花盛は法ありな人のまつへん

閑居花

谷花

古渓花

社花

関花

里花

後ふかくなまりて此谷門の盛ぬを世にをむれ

古なしぬむの盛や谷陰にありなる様もく人

採る鳥かく人そてまうろ気ちりめぐして衣ゆのうぐ

か入防の関の実も帳つれし人とうちむすむしけて

ゆく宮里とくく気て勢きて待うすなるをき

原花

池辺花

河辺花

橋辺花

湖辺花

海辺花

浦花

濱花

禁中花

故郷花

山風の誘ふにまかしもて向の様呆ありて花散りに

咲きも乃残る庭の池の浮ぶ気もゆかしやさしさ

老くもむ古河の流れ橋おも文も渡るんなきさやさ

山人の渡ミ鳴る谷川の岸むれ橋にむかへて流れく

月ある宿に浮ぶ波もめにかりむ咲かなし沖つ白山

あまのすむ磯山桜ちる花の行衣袖かかりし

風吹八声を旅ゆくあるは俤里ありも今ハおもやさらん

花さそふ山風ちけをちれの主なれ濱松が根さ人ぞ

さくらむ咲てやいさ百敷の九重ねハやしなめらん

春を今ゆ知る人なれ待らるへきりの去年が花あれ菊

をのつうらきの人のおもきうき花なまさはるさいのまれ

まうる海の色と人なれ後りて於花となるなられ去ぬ

古寺花　奥山乃横川の峰は花盛八重立雲と我やこゆらん

名所花　いくとせかまよひそめけんこゝろみよしのゝ山の桜に心ひかれて

庭前花　折ふれは咲そめしより我宿の花ゆゑ我庭のさくらも経やまん

松隣花　老の身に吹くる風の色添に松もわかにうつしぬ枝に

花交松　立まかふたかね桜は咲ぬらんうつりてきえぬ松の雪かも

花如雪　桜花さもにて春の雪なれはふりかゝる枝につもる木陰
吹くる風になをさそはれぬ新花盛にて我身もけさの空

花忘老　見てたのしみの其ゆへは花ぞ宝としりふる花盛に

寄花述懐　しはしとて花ゆゑにしてわかう老のそらにもかへりけるかな
境なりてにしきをかさね花ほへさ六十の老とくやつる
花にそむかん人はいひかはにも老の姿もなかりけらん

寄花懐旧　まよひおもへはしかめたるわかれにし若れは者ぬき

ゆるさし八十のよはひとなりぬ六十三歳の春むかひて
八十と思ひつれのしかれとなるしかの生れまかりなる
西の方人信行りたる双林寺とてと書ることにいたり
むまれてける
没しなき後の世をあまつ空まちてよの海の下法
山の日にすゝみし道善し行ひし涼しき人にしらる
しも行なりて　くれ

ほのめともつとし道を傍よ山の桜とよ我身に

極楽院の書に法阿上人かへとときかくらると人さし
こゝろ文に袖をてかれ桜色深の枝とさして足紋

花友　ほしき友とは歌の山里よ花色へ人にうるうさるに

花境　花もさかり盛さて中ゆらの物とれけの雪しらるらん

花下待　くつさし桜にちりし心地の下かけにたちてかつ待つ遠つ方
花向鶯　末伝へハ後にや鶯の声風そ花の匂ひかな
花ぞやゝ啼て鶯の声こそ枝にもなれ
風前花　色かハり後れはへなくらやわかれ風の声く散る名へ
いろ花をもさそふ人なれてや散とつらふや梢さへも
惜花　ちるを中いとふらむ花盛に風咲てまた見えける
花飯多　誘れわたし此下桜散ちるを到くおもひさらん
花随風　桜花ちやちらしん山風の声に咲かくまね(の)に雪
さくら花盛の盛も残すにか花の人に先ほし
都人まつてきれし山里のあるを花そふれく
落花　ちりその宮たえては桜たつ春ハ梅ハ庭の木かしよ
誘りたる風のやしらもはなちて木かけのく数はくらん
ちりる人まつぬるに桜む行にあさかならぬところん
とゆるめけふしなれや深きハ咲へきむのちつはなね
春きてハのこりさ風をちらしに梅へを見てくちつるに
ゆかさへて吉野ちるる袖のちらりめつくさかつ山さくらに
はるれ見て人たち袖の梢ちりたる花とくちるわくらに
末ゑたり桜よそ行て桜む散しく庭の花咲から
桜花末来よ桜の雪なきハ庭たえへく見まかりけり
ちりなり雪し桜りて咲風のうさきとも山桜に
水郷落花　いつるに桜まちつる風吹ハ花かそ流るなの白宮
立波の白ゆふ花を一つりし桜散りて、ちりそうる風
河落花　うしの川ちる桜散りうし、ちらくの桜りて白雪
池落花　花まてに池の鏡ハ桜ちてもとてそゝ花保の鏡ふ

閑落花　あふ坂の関のこなたにありしぬる打寄る波はむそぢ近く

行路落花　ちりぬるや花のこぼるゝ道すがら散かゝれる山の下道

夕落花　よしや花さかりもいまははてぬれどむかし咲けり

入相ハ花ふりくるゝ春の夜の花ちる風のうらみかな

今ハさてむかしの雲にまがひけれ花ちりかゝる露のまに咲

惜落花　風に散る花をとゞめんよしもかなくもりたる

青柳の花ちるころの花ちりしゆふべの雨のふる日哉

うけ木の下にたちよりて見ん

名にもあらぬ花をいとおしと雪かゝる梢かな

宮人のつどひ

うちむれてかざす花の雪ちりかゝる袖ハ何ぞなき人の夢

雲の上にかさねし花のいろゝを見たまひし

　花ちりて

友をつねにかなしさ

よそにみし花の色もちりつくし

う見し

花盛とりつきし雲路をともに

逢桜　ちりてのちとなりてふりしきるむかしを

ゆふぐれはうつろひゆく花にぞありける

うれしき花を見る心に入りて

流を眺めし

世の中の春をいくたびかへりみし

七十の春をむかへていまはその夜の花のいろ

流りゆく

邂逅　なくさめの時乃ひかり花の夜をそなたへ

山鄙躑躅
欽冬

[illegible]

河欽冬

[illegible]

藤

[illegible]

水邊藤
池藤
松上藤
暮春藤

春曉

[illegible]

春天象
春地儀
春歌暮
暮春

暮春雨
暮春寫
暮春月
山家暮春
浦暮春

[illegible]

三月盡

[illegible]

草菴和歌集類題

夏部

更衣

ぬきうすの袖の初もてつゝむしの別てゝ花に後れぬ

夏衣の初ハ紅葉なくうすき袖際の紅とゝ花に後れぬ

朝更衣

都鄙更衣

都うつる日ハ陸奥のうつゝ山ゆきもとのなつかしの袖

さらぬ山ゆきうつる風ハ見ぬ夏衣

餘花

尋餘花

殘花

山殘花

庭新樹

卯花

夜卯花

社卯花

里卯花

葵

牡丹郭公

待郭公

[illegible]

時雨いつとやまさしてはいとなかるもうらやましかりしかなと侍りしん

一夢のうちをやまれぬ時雨侍りしかとも初雪ふるとも

郭公をまちかねしかとも時雨しかしかとも日数へて此一夢とやまれやいきし

能さんかふるもかなれはとうるはいつの初雪侍りしん

人傳郭公

郭公を兼遍

へつくしこらひなくんこ紅月も里ら初雪の

初郭公

初郭公を

別れ頻に思ひたる思ひいるれは時雨そ

時雨ふれはこそきこえといふ人かうしの

遠郭公

遠郭公を

ほのかれる初雪の中に

[illegible]

暁郭公

暁郭公を

時雨いつ里そ思初雪とうしぬえとうしたとは侍りしん

いつとも里ふるとうしぬえのやれ山時雨

あまれとうしてやうしぬえの山時雨

五月の月さしのかるふのとおくれてなる時雨ふ

月は乃蔵はいかるふのとおくれてなる時雨ふ

うくてうして待ふもきらう時雨雲月の山ふれ

ふのくもゆうくてとうしぬえ横雲に雲あるふ時雨うる

夕郭公

夕郭公を

村雨の雲ふいるへ時雨は夕とやふのふきうしぬ

月ふりもふのあるさに時雨ふけてもふ以時雨うれ

寒さの夏は花いふ時雨ふ東の山あるふ

なくいふ夏ふうしたわくへきたかりしあいふ時雨うつ

山ふてうれり半なくきれをふるうしれ初雪とき

月夜の浦くこと思ふ事をまさぐられ侍る

保夜郭公

山家郭公

やまゝ里にはつれなくはなる紅葉のもとやまのもとを尋ん

杜郭公

湖辺郭公

水郭公

郭公遍

早苗

採早苗

山田の苗

菖蒲

ふるうきさ田もとりあへぬ苗代の田井かきそへ迄

つくしおやこゝろ行くらむ八月あれ苗の田井かきそへ迄

あはれてタ日さしこむ苗の原をゆくかりがねの

夕くれなゐ迄さへ物さびて澤田のきりぎりす

こととの門をたゝく小田の舟こぎ女の乙女

行くすゑ迄ふる田の面の苗代の里人

山人の歌詠まるゝ迄にさそふ

田しろの苗代の井とあるうの芦やぬきにまぬきは

あやめふく水やゝ迄やはれ迄にやつれ歌ふ

なるかの門なる沢にもゝ

なるかの門なる沢にもゝ

菖蒲とて

弦巻田しろの井の根ゝ

新菖蒲　いつしかの今日の新浴の使とりて君のおもかげにてぞ見る

水辺菖蒲　今日は根も深き沼の水にひかれてあやめぞおふる池の汀

夜念橘　聞くとも花橘の香にほふ夜半もなつかしき

むかしをしのぶ草の花さへ里は夕ぐれかたの宿

夏木　思へとや花橘の香ふらん我心すものこそむかしを

五月雨　ともに此ふる人をならはれ五月雨は水にはる山井の水

ながめして今日は我口のうへも見え八十氏川のさざなみ

行深き瀬とやなるらんさみだれの日数ふりつる五月雨の比

さみだれは水ひくまもなく雪ぞ浮世さへさみだれの比

五月雨に深沼の浅橋絶えたり深さも浅さも海のうへの知

ふる沼もかへても五月雨はみさきにこさむぞ菖蒲

船もなや海中に五月雨は知るよしぞ流る舟生の川波

さみだれくもりふるふる二条中ゆきて家より

あくる降晴なく八五月雨は晴るまでは待つへかれ

りなし

暁五月雨　五月雨ふらるれとも我をまにふる行く末なり出つ

あまたにおもひてたち襟袂の乾くをも惜む五月雨の空

五月雨久　行するよれ今の新橘もおもなくし僅かに結ぶ香の袖

五月雨は降かゝる日数さへふらんやまも挽きくれぬ比かな

今は我家は出ふたちにつる五月雨は浪にも乱れ降る行くに

五月雨晴　流る月のさやけさの空に一挽きくれぬ五月雨の空

うきりかれへ衣ほしし五月雨は八日の晴るゝに夫ある久出

松五月雨　五月雨に行く方もしるき松やまの松山雲そ今くれる

河五月雨　わたるまは浅瀬もいさや五月雨にくる河の瀬の床の山門

清て底迄見えぬ程の深さ成共六月頃に成ては水の乏しく成て[illegible]
[illegible]
[illegible]

河辺蛍

橋辺蛍

江蛍

澤蛍

野蛍

草間蛍

蘆端蛍

晩夏月

[illegible]

慰蛍

夏月

[illegible]

山夏月

浦菱月　之然の浦清秋のかの〳〵月といふまかる語より
さらのよハ月の山のひく程なくてそかるを月菱
雨後菱月　夕立の晴ちの月はしのもるゝ村やゝゝ
ひさしのゝ雨ハ程なくれいたるの高よとなる月新
菱　雨　と為乃酔も程なくれいたるの高よとなる月新
菱　胡　菱まの去をふつけておもゝ高さ八尋ゝ
ゝの分ちゝゝよに夜叉の宮ハ山てたとゝん
菱　叶　菱叶の去をも宮ハ新菱の見ぬ半ハ
ゝかゝん人ゝ見えれ宗叶の生ハ名指くせるゝ人ハ
野菱草　岩代の野中乃松の下菱も結ぶるゝゝ非
なゝ宮ハ野中の去れ宮ハて結ぶに菱を去ける
風前菱叶　夜叉の去をゝ分ゝ見えれ萩のくゝを去るの人乃夕風

庭菱草　夜の面と去をゝ乃方もたゝゝうゝとなれ色と彩ん
瞿麦　去乃叶ハ去をに咲ゝん秋口語のゝゝ乃ゝ
とゝゝ乃ゝ去ゝる歌ゝも去ん去ゝ乃新菱
鷺瞿麦　ゝして去れも狂ん夕去に咲ゝ歌の中ハ去
鵜川　色伝ゝ七休とのゝゝゝゝ私ハ去ゝゝゝ
しのゝゝとのゝ乃中ゝゝゝ下ゝゝ
照射　菱まの高ゝ去ゝ乃ハ去ゝ去ハ去ゝ
立ゝゝ去ゝ去ゝの高ゝ乃中ゝ去ゝ
ゝゝゝ去ゝ去ゝ去ゝ去ゝ去ゝ
暁更照射　夜ハの下国ゝゝ一先高の泥ゝゝ
氷鶏　おゝゝゝゝゝ鶏ゝゝゝ
蓮　仁宮の去ハ乃ゝ去ハ国ゝ泥の五兵

[illegible]

夕立風

夕立雲

山蟬

杜蟬

夕蟬

納涼

夕納涼

[illegible]

水卫病除

[illegible]

泉

暑避暑

[illegible]

志賀辛崎

猪野夏

河夏越

六月祓

[illegible]

秋部

早秋

早秋風

初秋

[illegible]

胡初秋

初秋風

[illegible]

初秋夜

初秋湖邊

[illegible]

残暑

七夕

[illegible]

兼待七夕

七夕月

[illegible]

七夕雲

七夕夜

七夕河

[illegible]

七夕橋

七夕鳥

七夕後朝

月七夕

萩

夜萩

宗萩萩

萩窓

庭萩

庭萩風

萩

萩窓

野外萩

薄

月見草

草花

朝顔花

草花

庭草花

閑居草花

草花驟風

霧中草花

月下草花

月迎草庵

禮

小鷹狩

霧

曉霧

野霧

野後霧

野外霧

野外秋達

秋夕

秋風

海辺秋風　萩のしたぶすまの浦の波乃あさ風

野秋風　荻の葉ぬけてふきそめし秋風もいくしほ

田家秋風　庵さびし山のふもとの秋の夕風

秋雨　くもりもあへずふるしぐれ

秋夜雨　秋の夜のつゆ玉ぬけてふるしぐれ

秋夜月　秋の夜の月もつれなくふけぬるか

秋夜荷　月とともに沈の重ハ蓮の葉

秋天象　あいぬ空ぬ人ぬ星もなくなりぬ

秋動物　秋風の日毎に吹けハ

秋植物　ちるを待て咲ぬ菊ぞ

秋田　かるとも田面ハ雪ハ

秋　ほくとなるハ水ハ秋

鹿

月前鹿　秋なれハ鹿の声ハ

月前鹿　山ハ月ハ鹿の

月前鹿　待ぬ月ハ鹿の

月前鹿　こゑ人のまくらに

月前鹿　立田山ハ紅葉の

月前鹿　声深き山の木陰

月前鹿　ハ月ハ鹿の

月前鹿　ハ月ハ鹿の

月前鹿　ハ月ハ鹿の

遠鹿
山鹿
秋夜山里ノ
暮の鹿
野鹿

四家雁
四家夕鹿
同辰雁
鹿色何方
鹿交草花
雁

初雁
山家初雁
月前初雁
明月聞雁
夕雁

田之雁出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蔦出

夕出

夜出

月出

荒夕出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山川のうれはやうて光ふかう秋の初きり
川風の吹よせしく新蕎にうえてそうるゆふの実紅
湖上秋霧　青海さく田の沖の波うちのかいそく繁れ向舟
浦秋　夕雲の霧の海やをそうんぬうそ時ぬ波うるの浦
俊尋　いそ〳〵又そうちとそとミ泉川むすくうてね秋の夕雲か
四之霧　夕日さんを初四のいうそ絶くふ雲えれ絶る秋の山本
駒迎　でハすてというあそ今れお紙とこ雲て出るを月の約
月　よりそ松のうれ月とそ雲ちの四西をふ月てうるふ
やれのくつれうこのうをうを月れ新て絶ふ
うくうあ雲ふうすれ村ヒハ月れ新てあ雲れ
りうてようれ分のれ月ふうれ西ふうく絶ふてうる月新
かうめてもうくれうとやりゆ深ふ中ふ月ハすれ

七月のたきりに雲ふ川ふうに雲ふく絶ふる月新
月新乃ヒも絶ふるちりうー吹ふるうぬ雲ふ
風吹ハヒハれくふ月ふ絶ふ月の新ふ
ふうて月の林の一なハうれふ月ふけくうん
秋新ふ西月絶と半しふ水ふ月ヒの新ふ月うり
老てうるふうれふの月て長成新月ふうう半くけん
待夫雲月　かれくうれ絶ふ秋の半ふ月れ出ふ雲ふ
九月十三夜　ふうくうさふすれふ月れ出ふ雲ふ
注山見月　絶ふくうれふ絶ふ月ふ雲ふ
山家見月　月新ヒうれふ絶ふ月の月ふ
雲間月　絶ふうれふ絶ふ月ふ絶ふ月ふ
霧間月　立こめて雲ふ中ふ秋雲ふ絶ふ月て出ふ月ふけ

夢之月

月前嘉

月前時雨

月前秋

月映夜

月残暁

暁月

暁更月

暁月駅雲

海上暁月

夕月

夕方とおもはれぬ四の雲ふく吹ぬけて月いとすゝしき秋の山風

山の端ふかうふけゆくとおもふ夜のわりなく人ぞ

たくはへつゝ人の秋のあはれをもとゝふもやうる月の

高ぬる秋の半ば乃秋の夜に光ことふもやうる月の邪

秋秋の夜とおもふ月ふけ行まゝ老の涙とそ

ふけ行くとおもふ月ふかく月ふかく月ふかく

月新しく秋の二夜ふかいつれ神代のうみあらん

入月前の水ゝをとゝる月をいつしの張へ

ゝむ月ゝ暁高ふ新しくして秋入方に月をさそふた

月新のうゝ月くたふ月をあはれ

海ゝ暁月ゝ月ゝ月ゝ

雲月

野月

野外月

野径月

野高燒月

閑月

橋下月

澤月

江月

江清月 近人

河月

海月

海上月

海辺月

湖月

湖月

浦月

鴨月

渡月

故郷月

里月

山家月

山居月

田家月

古寺月

[illegible]

秋夜八重垣

[illegible]

月の秋

[illegible]

月の秋

[illegible]

月の秋

秋のよ人ちりて花ある竜寺・うつりゝ

小里ふる月の山ゝ也ゝ

花ある能色の月ゝつぬふ人ゝ

てゝ後つゝ月ゝ

蓑衣

面影ゝ

ゝ人ゝ衣ゝ

春のこゝろ

里人ゝ

秋の人ゝ

ゝ人ゝ

月前蓑衣

夕蓑衣

夜砧

[illegible]

海士砧

[illegible]

遠村砧

[illegible]

小家砧

[illegible]

里砧

[illegible]

砧衣

[illegible]

鳴鶉

野鶉

菊

[illegible]

月原菊

[illegible]

菊雛形

[illegible]

菊酒

康安元年九月四日[illegible]

[illegible]陽の日経[illegible]

[illegible]

[illegible]

大海きこしめしてうたよみ給へる

[illegible]

紅葉

[illegible]

夕紅葉　[illegible]

月前紅葉　[illegible]

月前楓　[illegible]

山紅葉　[illegible]

紅葉遍　[illegible]

名所紅葉　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

草菴和歌集類題

冬部

初冬

いくかぶり秋とふるかぜ山風の声にはるをまつ夜ぞなき

山ぶきのこの一ぶりの秋ふるとおもふ花の色

初冬時雨

そこまでたれかつけてか神無月里わくけふはまつ人

時雨

山風の吹とまるかぜ山ぶきの花の色にぞ雨ぞふりける

時雨ふる里とそらぬれ神無月雨にはるるはるの日ぞ

いくとせ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれてはまつ人

栄の戸にいくもしぐれ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれて

はるのくるをまつ人山風の吹とまるかぜ山ぶきの

ちるぬれはるをまつ人神無月雨にはるるはるの日ぞ

くるをまつ人ぬれはるをまつ人神無月雨にはるるはるの日ぞ

時雨ふる里とそらぬれ神無月雨にはるるはるの日ぞ

いくとせ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれてはまつ人

栄の戸にいくもしぐれ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれて

はるのくるをまつ人山風の吹とまるかぜ山ぶきの

ちるぬれはるをまつ人神無月雨にはるるはるの日ぞ

大系和歌

とまるかぜ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれてはまつ人

風前時雨　山風の吹とまるかぜ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれて

暁時雨　うれあとはるもいとはるるかぜ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれて

朝時雨　出る日の光をまつ人村雨に花にてはきぬ又ぬれて

夕時雨　かきくもりはるるかぜ山ぶきの花にてはきぬ又ぬれて

夜時雨　時雨さへふるとはるをまつ人ぬれてはきぬ又ぬれて

屋上時雨　秋の国に板ふきの屋にてはきぬ又ぬれて

海辺時雨

落葉

[illegible]

落葉扇

落葉雨風

杜落葉

紅落葉

河落葉

流れ川の水も清山にて山の木葉ちらひたる
紅葉の雨と降るもかりそめにもてなす山川のあ
勧学院乃隆家十月の冬ごもりとかやとこころ
ゆる山の下葉紅葉やはと言はまくもかしこし
庭景集　花とのみ見るものの木葉を言はまくもかしこし
花の雨は濃紫の色に染まるもの
秋　菊　さんとうの白菊の色花の色
朝霧　冬枯のわらびのもとに萩の色
擣霜　春ゆく人ののこりなめまた春乃中山
寒草　枯のこる枯葉も春に逢ふなの枯つのかれ
冬枯の休みもつのの春の下くさ

枯野の草葉も枯れ枯れ枯れ

氷

湖氷

池氷

江氷

流氷

河氷

[illegible]

湖氷

冬月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寒夜月

推業

千鳥

夜千鳥

海豆鳥

濱千鳥

磯千鳥

浮千鳥

水鳥

暁水鳥
夜水鳥
雪中水鳥
河水鳥
澤水鳥

池水鳥

一名 氷水

鳩

鴨代

夜須代
風霰
古屋霰
篠霰
竹霰
霰似玉
雪

[illegible]

春ちかき雪降はてたるの山ざとうゐ卯月なる
時ならぬかすみ山の雪吹くるとは花の下陰
雪ちるく花ちるく雪吹くるかすみの枝の白雪
いとゞ冬の降積るとん木の梢ふかき白雪
雪ふけさゆるとそなれ秋とやせ田のもりを人の問ぬん
雪ちるとふ関に白雪
山ちへ花時なれば雪
[illegible]
雪おれふりしに深雪
[illegible]

降雪ふかの雪の氣色はいかなるかはやのこゝん
ふるさと花はちりて雪ぞ花の流入を大海と家もり
ふるさと花はちりて雪ぞ花の流入を大海と家もり
うゑもの
あるこのそれとも見るの雪ぞふるはいかやの雪
月夕雪ト代半抱のうゝと無しとかの月にをり
降て天雪のあるさにとつゝ降り降て
ふり名れ松と見て三笠山ふる雪ふるうつる雪
うゑもの
三笠山ふる雪の白雪ぞふるまふつる雪を染き
雪の降日ふる降て降て降たるとも
いつふりかねて人の降しかは惟条の今これ降松

初雪
山初雪
庭初雪
淡雪
猿雪
曉雪
曙山雪
朝雪

山里に行あり行の雪ぞ生ふ雪に昔ぞ降ぞ
雪ふるを山の名し雪の雪ぞふるとうゝ
山陽ふるを山を松を結ぶ雪の松雪をふる
冬枯の梢にまき雪て松ふるつる雪の松雪
けさは雪の松をもつ雪ふるの雪の雪
うゑもの松をもつ雪ふるの人と降ぞ
雪ふるれば雪ふるの月ぞ降るのとは人をにふれる白雪
雪ふるれば雪ふるの月ぞ降るのとは人をにふれる白雪
白雪の夕消ぬも明ぬかなくふる雪
冬来もゆるとやふる山のとぞ人雪や雪ぞ光かん
天の月しのれふるとて雪ふるの中山をとくふれる白雪
手やふるもちる雪ぞの雪ふるふるふる降ふる降ふん
降ふるふる雪ぞ山ふる雪ぞふる中雪ぞ降ふけの雪を降雪

夕雪
山雪
原山雪
遠山雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

関雪

関路雪

関路暁雪

行路雪

橋上朝雪

河遠雪

海遠雪

湖雪

湖辺雪

浦雪

庭雪

松雪

拂雪
鷹狩
久賀の狩
炭竈
遠炭竈
炉火

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歳暮雪

山家歌集

歌歳暮

冬夜

冬動物

冬述懐

冬奇歌

亥部

[illegible]

[illegible]

初恋

思不言恋

悲恋

恐久悪

恐深悪

生恐悪

恐待悪

恐不定悪

恐不遇悪

恐怒悪

恐絶悪

聞悪
聞多悪
見悪
祈悪
新神悪
新久悪

祈身悪
誓悪
契悪
契久悪
契後悪
契絶悪

三年不見書ヤとこうのふ章とふ物もうん雪かれりぬ三度ふる

別恋

[illegible]

絶恋

不逢恋

[illegible]

不遇恋

来不逢恋

待恋

[illegible]

夕待恋

毎夕待恋

暁待恋

待空恋

速夜待恋

暁待恋

逢恋

初逢恋

初逢恋

[illegible]

年逢恋

[illegible]

橋逢恋

[illegible]

後逢恋

[illegible]

夏逢恋

[illegible]

旅宿逢恋

[illegible]

別恋

[illegible]

暁別恋

[illegible]

前後會雜部

後朝恋

後朝初恋

逢不遇恋

不會

不逢

立名恋

歎無名恋

顕恋

絶顕恋

絶後顕恋

歌恋

校歌恋

疎恋

変恋

絶逢恋

風聲傳恋

放妨人恋

梓恋

久恋

[illegible]恋

[illegible]恋

迫恋

[illegible]恋

[illegible]恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恐恨悪

互恨悪

恨欲悪

絶妻

絶久悪

絶不従悪

[illegible]

月前恋

月前待恋

月前後恋

月前別恋

春恋

夏恋

秋夕待恋

霧中恋

[illegible]

恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面教歌

寄月恋

寄月初恋

寄月恋

寄月恋

寄月懐恋

寄雲恋

寄風恋

寄烟恋

寄虫恋

寄雨恋

寄嵐恋
寄高恋
寄山恋
寄松恋
寄野恋
寄原恋
寄爾恋
寄池恋
寄滝恋

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寄沼恋
寄河恋
寄海恋
寄湊恋
寄洲恋
寄浦恋
寄栖恋
寄草恋

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寄恋草恋

寄恩草恩

寄霞霞

寄霧霧

寄本恋

寄花恋

寄花恋

寄名所

寄水鳥

寄獣獣

寄虫虫

寄海恋

寄月恋

寄樹恋

寄草草

寄道具
寄衣類
寄紙類
寄書類
寄弓類
寄弦類
寄鉄類
寄紙類
寄天炭
寄雑物

雜部

天象

[illegible]

天色無情[illegible]

流水浪を振

[illegible]

曙

曙雲

海上曙雲

山

山路雪

流水

一番ふるかもきく人[illegible]

[illegible]

山陰をもとり[illegible]

[illegible]

[illegible]

関路旅
海旅
海遠旅
湖辺旅
夏旅
秋旅
月前旅
冬旅
雪中旅

二条前摂政家歌合の時、月前旅

ながらへば　ふりくる秋の　月をまた　ひとりぞ旅の　空にながめん

旅行

雪乃ふる中山路ゆ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ

旅行

旅路を　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ

朝旅行

秋風に　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ　ゆくさ

月前旅行

旅宿

久方の月の光のとかやいひ侍るなるは月
月前旅宿
波のうへ出でゝ月と共につく山のそとゆるがおもかげ
旅宿夏
某様にくしてて加々の絵おのの愛おもんぬ
ふるさとの夏の夜の月ぞ思ひ出でて旅寝おこすの月
ふるさとの夏の夜の月ぞ思ひ出でて旅寝おこすの月
羇旅
某花伴さそふ山ふもとの夏風おもてをはらはん
羇中雨
くもりなき月の山ぶもとの夏風おもてをはらはん
羇中夏
ひとつ家ぬしの月ぞ友なるかりの宿
羇中暑月
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
旅泊
ふるさとの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
旅泊雨
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
旅泊夏
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
旅泊
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
舟行夜
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
海路
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
海路日暮
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿
山家
ちぢの夏ぬしの月ぞ友なるかりの宿

友もとめて山の奥を尋ねて岩のかりねの
なるべき人とてはなき山住の中とはいふ
乃枝をうれて
ちりはてぬのちはいかにかはりはてぬ山の奥
とのみうちもらしたりけれ人かたに住まれぬ山乃奥
さびしきはかくばかりなれ山里の住まれぬ人は
かくてこそあるべけれ山里の住まれぬ人にこそ
慣てこそ
はかりしとやうに林さもなるれはるる山のおく
移ろふ山の月日はすぐれ老てそこに住へりする
新人かつれ松やの山里にとられぬよりもはかりかな
今夏にこそ
さびしさは世にやうねん山住をとてはてんは
年山のおくふ業のつりえ人もとろふとりねとりて

住りしに人はなくてちはうれこそ住りしはい
るものをふ山ましつけ住し
山家尚
たてまつる山のおくふも松風のこゑ人に住
山家多尚
山里は松のかりはいたてしてけ
山家松
武蔵は新とをとこ人もこてこそ
多つ風のあなるこそ入た山の住れうはよこそ
山住を松はむしの友るして新り風の音て聞
松風のとをををこれうはこの夕えぬかと思ふ
たつねてこそとのうるはなにも聞て松風そふく
松風のうたと友ふこそ山せうこ人ものこてぬ余に

[illegible]

[illegible]

山家松老　山家松　山家歌　山家水　山家路

[illegible]

春日社神木多く流れ来る大河の水に諸神名号の一字とゝろうとゝ[illegible]

山家水　[illegible]

[illegible]

山家送年　[illegible]

閑居

[illegible]

無題　一気に[illegible]

[illegible]

[illegible]

田家

田家水

田家烟

草

蓼長海山徑

竹色不改

竹邨多春

寒竹

松

松風

薄雪松風

扇松

袞松幸久

甫松

庭松

名詠松

松春

松島五景

雜部

鶴

嶋鶴

庭上鶴

鶴翁遊年

[illegible]鶴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

都島

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄太述懷
山家述懷
述懷依べ
老後述懷

述懷後
寄後述懷
寄月述懷
寄情述懷
寄世述懷

寄神述懷
雜述述懷
懷舊

野中述懷

夏懐旧

獨信流

寄羇懐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

去さるかたの仏前にて
おうるの文うれさ巳ばらくはいとのことくに女房乃
中ふ中ばかり
うつりゆく月のとしをつくしかはと心ふとまつ
れそ一歌ばかりさて八幡宮に奉納ふ
昭孝門院の持参ける四つの永陽の法友宗重　条
ひとへさくはいかさくに物る命をありとうしるとはかへしう
かくく花老に命とまつ秋の表ふくてかるとやまと
海のもちふくはしうるあな斉　歌はこの花一条ふ
ひとくさくさくに思ふされとうり歌のうしはいとうとまし
惟宗光吉卿の母ふ中ばかりの作りしとまつふくうるし

こしに男氏ありしを　定乃記要一　まつてはさいはいはうる
日ふとしこのくしこ作りし
とうのはいとそれるくし歌はさくふ日言
八月十又日ふ一人のうるにのくりあるして
人のよしかくに約ふうとしまつ一八きふくり
名ふうる記月ふうにこれて出りの法の石物ふる
ふくさくへと月ふうよ物くり作りとしいはく
くりふくのもそしへうもやふ人に用ふうは
法下作歌ふくうくふの法に作りすを不結ふこと
ふうりふうふうあふ湯ふくふくり一用ふのち
ふ月ふ参ふ作ふ中の作ふ
ふあるふうふの作ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

門の内にこしらへし成神の一軍なるべしとうんかく
人口にうけたり一もちかな
[illegible]
[illegible]月新にかのやまとをるをやかた
きいかに山つくいたの雲のそらめもう
[illegible]のうにたりけり一人業のやさ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

哀傷

無常

夏

神祇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延文元年の古歌集に[illegible]
[illegible]新宿社[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

祝

寄道祝

寄浦祝

寄杜祝

寄花祝

寄滝祝

寄神祝

寄神祇祝

釋教

釋教水

寄花釋教

大日

釋迦

菩薩

人界

聲聞

緣覺

色不異空空不異色　般若心經

不增不減

玄奘不空

第勝王經護國王子因緣

靖愛行狩及賓羅淵出微妙音聲如百千種樂因

時俱作　出法華經

今そ少松次凡のまたもて拔ふとの三〳〵ありくハ

宮沈にもある

望ハ〻く宮の沈ふ潛ふ代生つ徒ふうらひなるふ

普願 象次

爲の為ハ生ふ活ぬ生りくもて爲ハ爲ふ為ハ為ハ

弓拍陳鉢左大陸衆菩薩ふ天地ハ漏と又

ふ〻ふ〻ふらあしふ

大宝ハ宝の位もりふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ

無三惡趣願 毛量壽經

ハ〻ハ願ハのふ〻ふ浦の石も安久ふ才に濃を勾ふ

為ふりむハ永のふ〻ハふ〻ふ〻ハ徒ふ入ふれ

徒沈を願のふを

法華經 ふ〻ハふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻

一切衆生悉有佛性

唯識論　非實後故如空花等

安楽集　唯有淨土一門可通入強

維摩神通観雖密迹　性宗伝

門し見佛後生淨土

身相神通楽

五如境界楽

南無の曼多羅　ゆるとろ

こんやけ　ゆるとろ

此世界は　ゆるとろ

抜る吹風　ゆるとろ

淨土と云所は　ゆるとろ

弥陀と　ゆるとろ

まうす　ゆるとろ

此湯の入口と　ゆるとろ

ゆるとろ　ゆるとろ

佛今和と　ゆるとろ

[illegible]

九月十三夜 [illegible]

[illegible]

[illegible]

法空観音院に入せ給ひ [illegible]

[illegible]

[illegible]

後宇多院御時 [illegible]

御法華[illegible]

正遠[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢より人の奇とゝんせ作ーと所つゝ所をとゝ紙より
いとの浦は信さ備のなまつゝ光てかゝるむとゝろ水
お関白ゝより百首中奇ゝ人をゝれんつりーとゝ
ら四しゝゝ水ゝんゝゝせゝゝゝゝ紙ゝくふゝ
つゝゝゝ伊ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
伊勢の海の浦と隠して弱ゝゝ光ゝゝやゝゝゝん
世務ひまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いつのまふゝゝ備のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ海の浦やゝ
小宰相局俗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

勅撰卷頭のうち俊頼主殿入道俊成卿ばかりにて
[illegible]
わが代俗に入て和歌
世要中系長度八度新撰三ふへきかとうね作し
をとをとし[illegible]
今をかぶの[illegible]
後鳥羽院の[illegible]
[illegible]
[illegible]
の明[illegible]

らるへきかし同名年此大殿うけ[illegible]
[illegible]
物[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

比叡山の乃千雲かゝりてゝ[illegible]

山人の袋たゝ[illegible]

老行後也賀山越[illegible]

[illegible]

此りしゝ行りしゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

こんなる花ぐもふ紅かとうの花をとりて陸奥きの

蔦小路大納言

岐のう(乃月)おりさしの紅葉やさけるん

宰相中将

立羽の月ちかに行しるしるふ紅葉をしるふ

左中将通定

なるまくはかぶふ紅ちりふさけて紅も月かいそ通

門院さくこ不ゆわくくもりしらはやまのくきりに

花ちへくそくりしらはやまのくきりに

ひらはふ岐のあるふ夫ふ紅をそ一人あとへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふなびとの　ちりぬる花も　さそひては　そらのかぜに
うつりぬる　みだれぬるかと　つむふねも　風をたのみて
帆をあげて　はやさにちらす　なびけども　波のちさとと
さるをとと　ちるをしたれば　ちるをしたれば　三つのうみも
ちりぬれば　ちりぬれば　飛中おもふ水
うらみのうを　ちりぬれば　たてりのおれ
うらみのうを　ちりぬれば　いきたるかぜ
花とりの　いるのかうを　絶ぬ
おきこしと　ちりぬれば　ほさいそれを
てこされて　ちりぬれば　行とる
ちりぬれて　ちりぬれば　たちつり
ちりぬれば　ちりぬれば　ゆきさの
うらみぬれば　ちりぬれば　糸行
ちりぬれば　ちりぬれば　ぬるる事に

さそひて　そそにはよ　ちりぬれば　ちりぬれば
ひろひるみ　月のそくと　ちりぬれば　ちりぬれば
ほそかなるん　ちりぬれば　ちりぬれば

しぼりこころなるくさ　ちりぬれば　ちりぬれば
合かりて物をこのそ　ちりぬれば　ちりぬれば
ぬしふそくて　ちりぬれば　ちりぬれば
ぬる井ぬの　ちりぬれば　ちりぬれば
ちるけさの　ちりぬれば　ちりぬれば
ちるかなに　ちりぬれば　ちりぬれば
ちるくはい　ちりぬれば　ちりぬれば
ちるしきぬ　ちりぬれば　ちりぬれば

[illegible]
みもわくて
夕附夜
冊子の川
[illegible]の淵の
[illegible]を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

折句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅類部

松間紅葉

述懐

六地蔵ホ法楽し侍し

月八今年百八しゆ中やしかとて

廻文部

雑部

[illegible]

やまもしかこそ[illegible]二月[illegible]

紅葉[illegible]

あらつきくみそをはる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕雁　曙やはかなくかすめる雲間の夕霧のうへの玉ぶし

海鳥　さとりをよそにくゝたふるかはくさ山ゆめ覚まさぬ

千鳥　なれさりのこゝろのうちの涙おち代々ぬ仏と成しつゝ

しのぶ

くゝのかぶうつゝ歌の道ふたゝびかたみ

寄世恋　契のこゝ仏わさうしかぶらくゝ今もにこゝろ

寄　ゆゝしかるあはれとわむ玉ぶしとつゝしみ級

ちゝのくゝ仏くゝ今にふくゝ仏ゆゝ人の

作らるゝ仏ふつゝ仏ゆゝ

いくもちゝ年とやるかれ世くゝ知らるゝあと

一筋わゝ筋をとゝくゝ仏ゆゝ

世ゝ仏の仏ゝ一筋わゝ今ハ仏のこゝふゝ

念仏中作し用

老ゝ仏ハ仏のゝ人と成ゝ仏ゝ

詠百首和歌　　頼阿

春十又首

遠峰帯晴霞

[illegible]

殘雪更新殺

[illegible]

春淺来連夜

[illegible]

柳花数点雪

[illegible]

清月上梅年

[illegible]

柳間黄鳥啼

[illegible]

春来浪拍空

[illegible]

春深花開

[illegible]

花開紅樹乱

[illegible]

花後風多

[illegible]

[illegible]

花薄招き

[illegible]

鶏鳴掛ける蘇

[illegible]

歳時春秋

[illegible]

春日雲雀

雲の雲ひ[illegible]

夏十首

涼谷夏雪

[illegible]

緑樹連村暗

[illegible]

山雲夏如雪

山[illegible]

松風五月寒

[illegible]

風樹吟蟬閑

[illegible]

秋聲雨荷

[illegible]

扇裡風生竹

[illegible]

泉聲到海蓋

[illegible]

[illegible]

雨餘生映深

[illegible]

螢入定僧舎

[illegible]

秋十八首

[illegible]

一雨洗殘暑

[illegible]

野色俱秋光

[illegible]

天高服換空

[illegible]

秋夜暑禁色

[illegible]

猶花如須臾

[illegible]

江聲入秋寺

[illegible]

月色一慈光

[illegible]

江月迎人

[illegible]

雜部

[illegible]月

山端月初上

[illegible]

月白後況

[illegible]

遠山青入夢

[illegible]

風便数[illegible]

[illegible]

新[illegible]

[illegible]

冬十首

[illegible]

[illegible]

末[illegible]見[illegible]山

[illegible]

人跡[illegible]

[illegible]

[illegible]林[illegible]月

[illegible]

山[illegible]水欲[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

清晨雪撥門

[illegible]

晴雪為出松

[illegible]

獨釣寒江雪

[illegible]

清辛川晚度

[illegible]

無十首

心知人不知

[illegible]

[illegible]

三年不見書

[illegible]

[illegible]

入夏詩如何

[illegible]

[illegible]

空國強梅秋

[illegible]

眼前無雲心

[illegible]

別後倉難期

[illegible]

何處又相逢

[illegible]

旅十首

山路雲間没

[illegible]

江邊岡松下

[illegible]

舟中[illegible]

[illegible]

[illegible]

掉入黄芦浦

[illegible]

蓑笠渡山徑

[illegible]

卿信寄切丁

[illegible]

人沙秋光中

[illegible]

路明殘月在

[illegible]

漁聲入蓑笠

[illegible]

寒燈双鬢覚

[illegible]

閑居十首

幽居有餘楽

[illegible]

蓋日掩柴扉

[illegible]

秋月離宮見

[illegible]

深居絶見非

[illegible]

山中無歴日

[illegible]

寄情人不見

[illegible]

弦生遠白時

[illegible]

閉門尚野鹿

[illegible]

梟生孤無事

[illegible]

竹径無逃客

[illegible]

雜二十首

半山夕陽

[illegible]

撞聲雲外殘

[illegible]

水鶏 天盡頭

[illegible]

流水浸雲根

[illegible]

山光落釣糸

[illegible]

船子浪高低

[illegible]

[illegible]

風林響寺前

[illegible]

天色無情誘

[illegible]

人間多苦人

[illegible]

世路山河險

[illegible]

清溪孤艇新

[illegible]

松多香不見

行人の[illegible]

遠嶂收殘雨
[illegible]

落日沉海氣
[illegible]

清風宿世塵
[illegible]

裏鬚吹胡繞
[illegible]

瀑迫乘船面
[illegible]

鷺立斜湯裏

山田級々
[illegible]

僧詩悟色空
[illegible]

詠百首和歌
春二十首

歳中立春
山寺
春雪
胡蝶

[illegible]

澤若菜

雪

梅薫風

沙路柳

春雨

春草

春月

歸雁

初花

見花

散花

惜花

雪消ゆ春の門田に苗代の水ながれ入れば
雪のくる海の白糸打ちかけて並べ干すかな
吹風や梅の匂ひと共に来てかをるは
人の心なるべし
春の庭上もなき柳の糸
山の色の庭上もなき柳
清水ゆ雪の下にかくれ
山路乃秀や花とそつんとして
ふと抜てみちの草
しそもの
知てそ
知てそ
一枝も
つる法の日

風吹は梅の実ぬれ林泉ふかさも見ぬ
くれの色にさける山吹の
松ゆえ
沼も
雖歎冬
松と孫
春暮

夏十首

首夏
待郭公
聞郭公
早苗
深夏月
夏仲
夏月

くれのこる
鳴
ほよ
林
しの
当
蛇

水辺蛍　夕やみふかみ行くかぜに蛍のとぶ
夕立　吹とくる浦風涼し夕立の雲も越ぬ山のはの月
六月扇　はるかぜ一本残りて扇やあきぬ川の麻はあ
秋二十首
早秋　立そめし秋とそ聞し人はまつ花の秋は初風
乞巧奠　月新しく入て七夕の逢せを照せ星の光
萩風　一へ[illegible]彩雲の萩の葉に秋はあらしの風
萩露　ゆるとそ聞つるそれ[illegible]露の玉
秋夕　夕されは奥山[illegible]住鹿の声ばかり秋風の吹
初鹿　秋の夕に[illegible]ひとり夢を覚ましてけり
秋田　[illegible]稲を[illegible]住[illegible]秋風の吹
夜雁　[illegible]の尾上に落つる雁の行[illegible]

曙雲
山月
湖月
野月
夜月
雁月
関月
関月
関月
関月
雲間月
秋月集
九月尽

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の山はしに出る月[illegible]
久[illegible]
毎の[illegible]
[illegible]
[illegible]

冬十首

初冬時雨　[illegible]

寒叫　[illegible]

歳暮　[illegible]

冬月　[illegible]

深雪　[illegible]

積雪　[illegible]

氷　[illegible]

歳暮節会　[illegible]

深山歳暮　[illegible]

巻二十首

寄月恋　紙砂か寄るとよりはまくらの月をしたくやうそうそうば

雲　[illegible]

雨　紙袋の袋に[illegible]

風　[illegible]

霧　[illegible]

海　[illegible]

滝　[illegible]

原　[illegible]

橋　[illegible]

渡　[illegible]

水　[illegible]

[illegible]

、あ、
、熟、
、味、
、ね、
、鏡、
、松、
、長、
、弓、

雑二十首

燒鶴
夜燈
常灯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

起別いくさの家ゆ秋にてうけきこれ

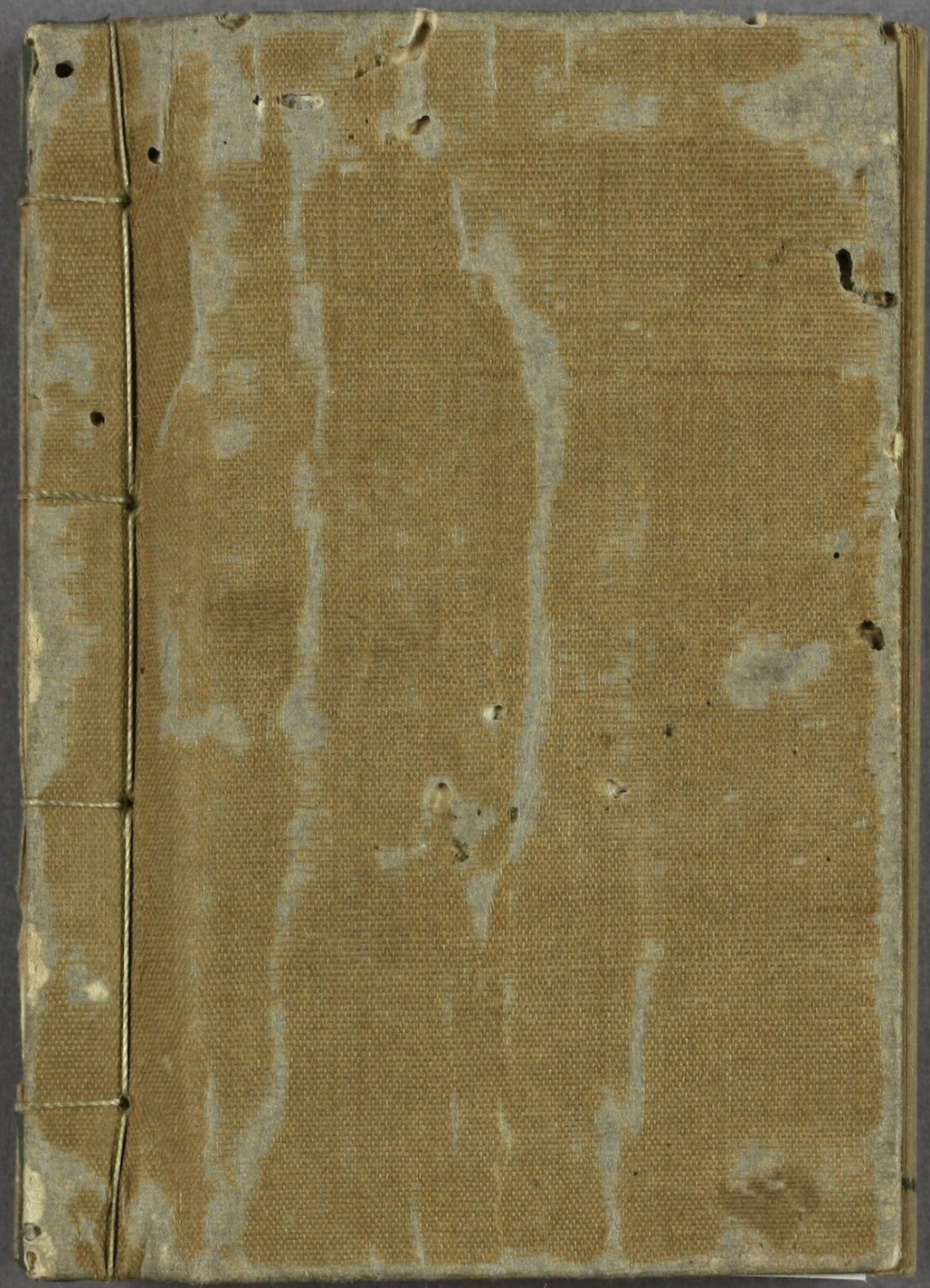
ゆくへもしらぬ海ゆくこと時ゆ清況はん

海路点

いとゆ流ゆいくへの時とへくそもれを無の　海江多況

寄社祝

又十川清き流のこゝろ況ゆ秋や久しく住をめりむ

日、、

くもりうつれるとてつゝ世新潮日ゆはかるるを竹ゆ